

嫌気培養採取容器変更のご案内



2024年 11月
株式会社グッドライフデザイン

このたび下記のとおり嫌気培養採取容器を変更させていただきますのご案内いたします。
何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

記

<変更日>

2024年12月頃より在庫がなくなり次第順次変更

<変更内容>

変更後	変更前
シードチューブ (栄研)	ケンキポーター (テルモ)



<変更理由>

メーカーによる現行容器の製造中止

<シードチューブ使用について>

臨床的に嫌気性菌が重要と考えられる場合、シードチューブを使用して検体採取することで、滅菌スピッツで検体採取するより検出率が向上します。

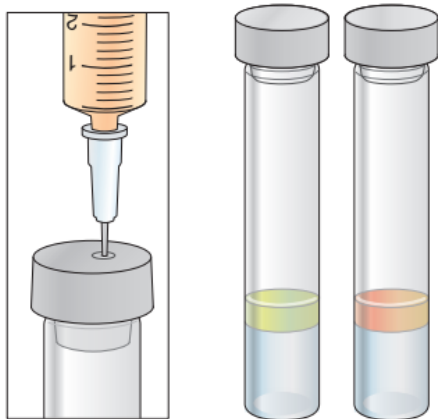
嫌気性菌検査に適した臨床材料の例として、

- 常在菌の汚染を最小限にできる検体
胸水、関節液、脳膿瘍の膿などがあります。

<使用方法>

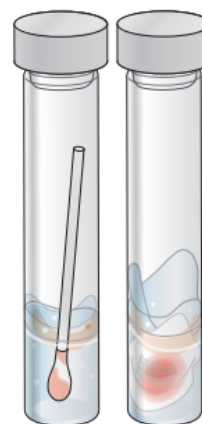
液体検体（穿刺液、消化液等）

- 1 穿刺部（ゴムキャップ上の小円）を消毒用アルコール綿等で消毒します。
- 2 注射針を穿刺部に垂直に穿刺し、液体検体を注入します。
- 3 チューブラベルを貼付し輸送してください。
- 4 検体は速やかに検査してください。
やむを得ず保存する場合は、冷所保存してください。



固形検体（膿、糞便、組織片等）

- 1 ゴムキャップを消毒用アルコール綿等で消毒します。
- 2 ゴムキャップをはずし、固形検体を入れます。
検体は寒天の奥まで挿入してください。
(注) 綿棒は長さ7cmまで入ります。
それ以上のものは、切断してください。
- 3 ゴムキャップを速やかにしっかり閉めます。
- 4 チューブラベルを貼付し輸送してください。
- 5 検体は速やかに検査してください。
やむを得ず保存する場合は、冷所保存してください。



以上

問合せ先：株式会社グッドライフデザイン ラボラトリー事業部
TEL:(0565)25-3165 FAX:(0565)25-3166
微生物検査室 内線：6067